

5-4. 松井田地域

1. 地域の位置と構成

松井田地域は、西側を群馬県と長野県の県境に接する碓氷川水系の上流部の地域であり、原市・磯部地域に市街地が連なる松井田地区、西横野地区、妙義山を境に南側を富岡市・下仁田町と接する臼井地区、碓氷峠で長野県軽井沢町と接する山地を主とする坂本地区、九十九川・増田川の上流域の九十九地区、細野地区の6地区から成る地域です。

地域のうち、碓氷川沿岸、国道18号沿道の一部が都市計画区域であり、他の区域の大部分は自然公園区域及び国有林の指定された山林の区域です。

地域は、国道18号により高崎方面及び軽井沢方面と、臼井地区横川駅を終点とするJR信越本線により高崎方面と、上信越自動車道松井田妙義インターチェンジ・碓氷軽井沢インターチェンジを通じて首都圏及び信越地方と連絡しています。

◆松井田地域の位置と構成



2. 地域内の各地区の概況と主なまちづくりの課題

(1) 松井田地区

① 地区の概況

【沿革・交通条件】

松井田地区は、碓氷川中流部の河岸段丘上の旧中山道沿道に形成された「松井田宿」の市街地を主とする地区であり、国道18号とJR信越本線間の市街地には、地域の枢要な都市機能、生活サービス機能が集積しています。

地区の北部には東西方向の広域幹線道路である国道18号が通り、高崎方面と軽井沢方面を連絡し、碓氷川右岸には、上信越自動車道松井田妙義インターチェンジがあり、主要地方道松井田下仁田線を経て国道18号と富岡市方面を連絡しています。

地区西部にはJR信越本線西松井田駅があり、隣接する西横野地区の松井田駅とともに、地区の市街地の最寄駅となっています。

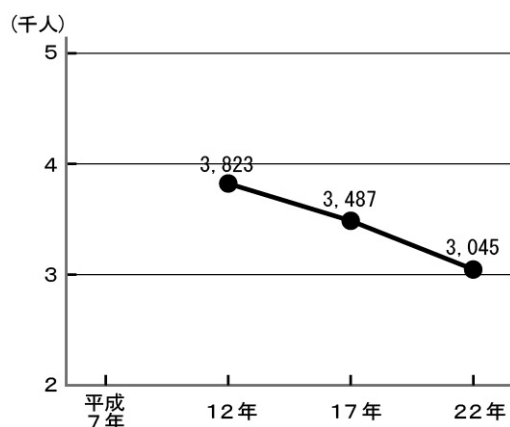
【人口動向・年齢構成】

地区の人口は、平成12年からの10年間で20%以上減少し、平成22年国勢調査人口は3,045人となり、世帯数も10%減少し、1,214戸となりました。

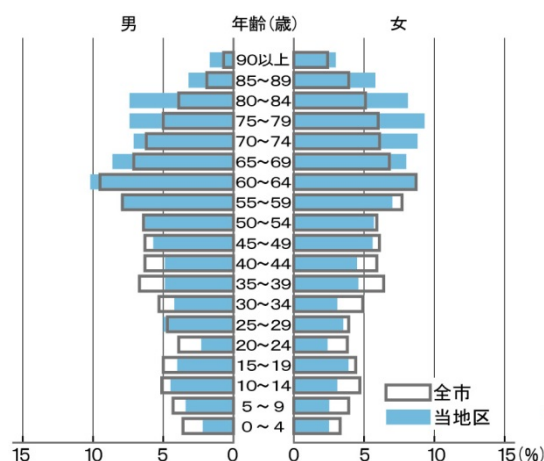
平成22年の平均世帯構成人員数は、2.51人/世帯です。

人口減少に合わせて急速に高齢化が進み、老年人口の比率は平成22年には約40%に達しています。

◆松井田地区の人口の推移



◆松井田地区の人口年齢構成



【土地利用の現況・動向】

国道18号と碓氷川・JR信越本線との間の市街地には、旧中山道沿道「松井田宿」の街並みが形成され、地域の日常生活を支える商業施設や公共公益施設が集積しています。

市街地と九十九地区を連絡する県道八本松松井田線、西横野地区と連絡する県道松井田中宿線沿道の松井田小学校、松井田高校の周辺は比較的建て込んだ住宅地の中に歴史的建造物が点在しています。

地区東部の国道18号沿道には、一団の工業用地があります。

他の後背の市街地は、南部の碓氷川沿岸では小規模な農地が、北部の丘陵斜面では山林が残る低密度な住宅市街地です。

地区北部の国道18号の北側は、丘陵斜面の山林を主とする区域であり、山林のなかに松井田城址の史跡と、ゴルフ場があります。

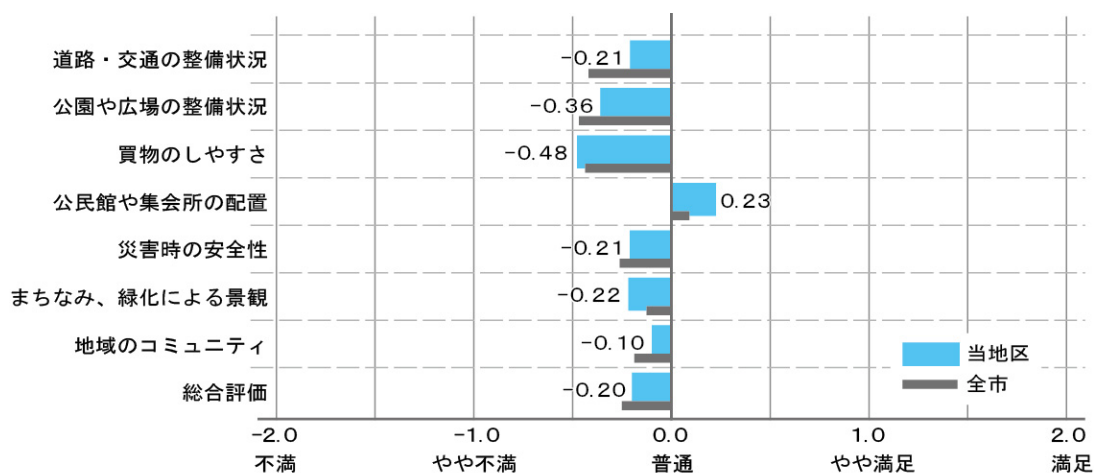
また、地区西部の上信越自動車道松井田妙義インターチェンジの西側の区域は、妙義山に連なる山林と田園集落地です。

【まちづくりに係る住民意向】

松井田地区の住民による地区環境の評価は、他地区と同様に満足より不満の方が高い項目が大部分を占めますが、道路・交通や公園・広場の整備状況や買い物のしやすさなどの都市的利便性については、他地区に比べて不満の度合いが低いことが特徴です。

また、各地区の区長を対象とした地区別ヒアリングでは、松井田宿を含む広域観光ルート of 環境の整備・維持管理、J R信越本線の運行の維持・拡充、公共下水道などの汚水処理施設の整備など、多様な意見が多くありました。

◆松井田地区住民による地区環境評価



② 地区の主なまちづくりの課題

- 地域生活拠点地区としての地域の公共公益施設の機能更新整備と交流空間・広域観光ルートとしての道路歩行空間の拡充整備
- まちなか居住、観光交流と連動する拠点市街地の再整備、活性化
- 碓氷川、丘陵斜面やJ R信越本線などによる分断を越えて市街地・駅と他地区を連絡する交通機能の強化、快適化
- 地域連絡幹線道路と旧中山道との交差点の改良整備
- 施設跡地、空き地・空き家の適正管理と有効利用
- 小規模で老朽化した公営住宅団地の再編統合・建替え
- 市街地の汚水処理施設（集中処理施設）の整備
- 市街地建築物の耐震化・不燃化、道路・橋梁の耐震化
- 妙義山の山並みの眺望、河川沿岸の自然環境・景観の保全

(2) 西横野地区

① 地区の概況

【沿革・交通条件】

西横野地区は、市城南西部で南の富岡市と境を接する地区であり、J R信越本線沿線、県道磯部停車場妙義山線沿道の東西に細長い地区です。

碓氷川中流域右岸にあって、碓氷川と柳瀬川の中の低地、柳瀬川南側の河岸段丘など、地域の中では比較的平坦地の多い地区で、全域が都市計画区域であり、東側のJ R信越本線磯部駅の近傍から地区西部の松井田駅の中の碓氷川と柳瀬川に挟まれた低地には密度の低い市街地が広がり、近年まで住宅宅地化が進行していました。

地区の交通の骨格は、東西方向の県道磯部停車場妙義山線と県道松井田中宿線であり、東部の磯部地区・磯部駅周辺と西部の松井田地区・松井田妙義インターチェンジ周辺を連絡しています。また、地区西部では、主要地方道松井田下仁田線が、松井田駅及び松井田妙義インターチェンジと南方の富岡市方面との間を南北方向に連絡しています。

地区には、西部の碓氷川右岸にJ R信越本線松井田駅がありますが、地区東部の人見地区の最寄駅は東方に近接する磯部駅です。

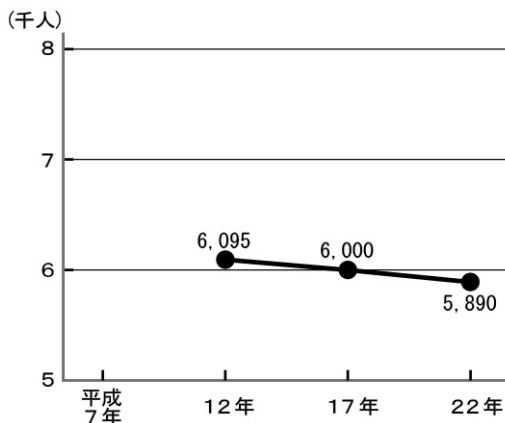
【人口動向・年齢構成】

平成12年まで増加傾向にあった地区の人口は、以降次第に減少し、平成22年国勢調査人口は、5,890人です。この地区人口は、安中地区・原市地区に次ぐ市内第3位の規模です。

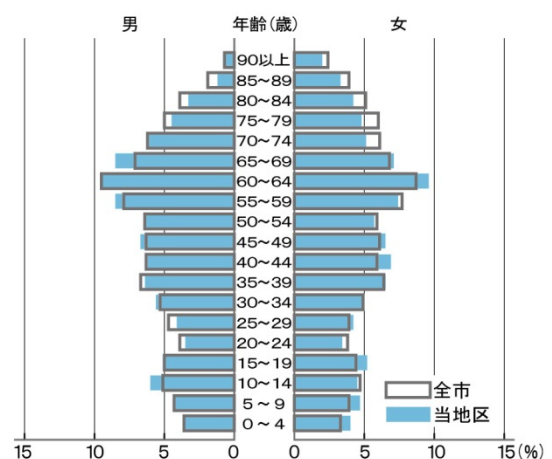
世帯数は、次第に増加傾向を続け、平均世帯構成人員数は、平成22年に2.64人/世帯となっています。

人口増加の時期に団塊の世代の入居・転入が多かったせいか、平成22年の高齢化率(老年人口比率)は25.4%と、市内平均より若い年齢構成となっていますが、今後は急速な高齢化が予測されます。

◆西横野地区の人口の推移



◆西横野地区の人口年齢構成



【土地利用の現況・動向】

J R信越本線北側の県道松井田中宿線沿道には、中小規模の公営住宅団地、戸建て住宅団地と小規模な店舗・作業所が混在する住宅市街地が形成されています。

地区中央部のJ R信越本線と柳瀬川に挟まれた県道磯部停車場妙義山線沿道の区域は、小規模な農地が介在する低密度の新市街地です。

地区西部のJR信越本線南側には、磯部地区の磯部駅南側に一団の工場用地と一体の大規模工場用地があります。また、地区西部の県道磯部停車場妙義山線沿道にも工業・流通業務にかかる産業用地があります。

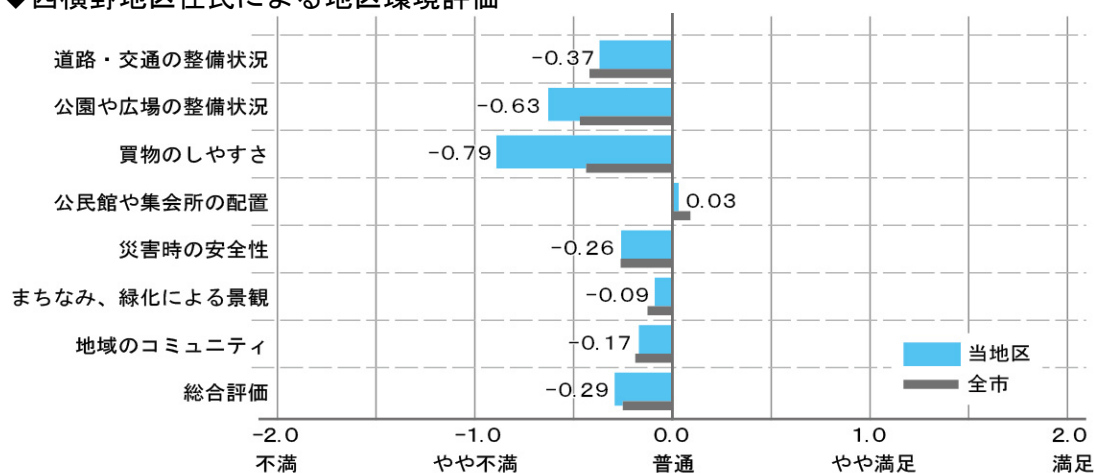
その他の碓氷川沿岸の低地と柳瀬川南側の河岸段丘・丘陵の上部は一団の優良農地と集落地からなる田園集落地です。

【まちづくりに係る住民意向】

西横野地区の住民による地区環境の評価は、買物の利便について、不満が大きくなっています。地区の市街地が広いにも関わらず日常生活を支える商業・サービス施設の立地が少ないためと考えられます。また、住宅市街地が広がっているにも関わらず、子供の安全な遊び場となる公園・広場が少ないことも不満の多い項目です。

また、各地区の区長を対象とした地区別ヒアリングでは、不足している地区の生活幹線道路の整備、通学路などの交通安全性の向上、河川や道路の環境管理、美化、畜産などの農業生産環境、工場などの工業生産環境と隣接していることによる公害の防止・快適化、生活環境の改善にかかる多くの意見がありました。

◆西横野地区住民による地区環境評価



② 地区の主なまちづくりの課題

- 松井田駅及び周辺のアクセス道路・交通広場、公共的駐車場の拡充整備による地域交通拠点としての結節機能の強化、快適化
- 上信越自動車道松井田妙義インターチェンジ周辺の幹線道路沿道の広域自動車交通の利便性を活かした産業用地の計画的な開発整備の誘導
- 地域の生活を支援する近隣性の商業・サービス施設の計画的配置、立地誘導
- 住宅市街地の生活道路などの基盤施設の系統的な整備
- 通学路となっている道路の歩道整備、交通安全性の向上
- 小規模で老朽化した公営住宅団地の再編統合・建替え
- 市街地の公園・広場の配置整備
- 河川及び沿岸、丘陵斜面の緑地の環境・景観の保全

(3) 臼井地区

① 地区の概況

【沿革・交通条件】

臼井地区は、碓氷川上流部の河岸段丘上の田園集落地とその後背の山林及び妙義山北側の山林からなる地区です。

碓氷川左岸に隣接して国道18号、JR信越本線が並行して通り、また地区西部に信越本線の終着駅となった横川駅があり、古くから関東地方と信越地方を結ぶ交通の要衝です。

地区中央部の碓氷川沿岸、国道18号沿道の田園集落地と後背山林の一部が都市計画区域ですが、南部の妙義山北側の中木沢流域の山林と北部の群馬県野鳥の森・小根山森林公園周辺の山林は国有林であり、自然公園地域です。

碓氷川左岸の段丘の上には上信越自動車道が通り横川駅の北側に、横川サービスエリアが設けられています。

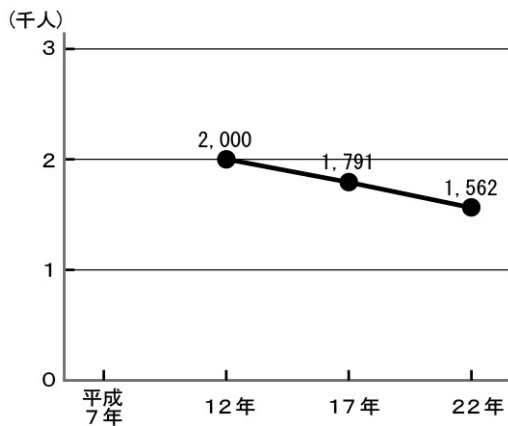
【人口動向・年齢構成】

地区の人口は、5年間に10%を超える急激な減少を続け、平成22年国勢調査人口は1,562人となっています。

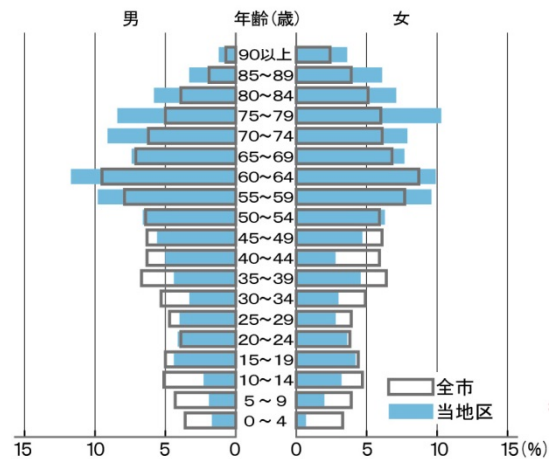
世帯数も減少し、平成22年の平均世帯構成人員数は、2.38人/世帯となっています。

急激な人口減少に連れて高齢化も進み、人口年齢構成は、老年人口の比率が大きく（平成22年：39.2%）、若年人口が極端に少ない社会構造を示しています。

◆ 臼井地区の人口の推移



◆ 臼井地区の人口年齢構成



【土地利用の現況・動向】

地区西部のJR横川駅周辺、旧中山道沿道は、碓氷関所跡やアプト式鉄道時代の鉄道文化遺産があり、観光商業施設や地域生活サービス施設が立地している観光商業地です。

国道18号沿道と碓氷川の河岸段丘の上部は小規模な農地が介在する集落地です。

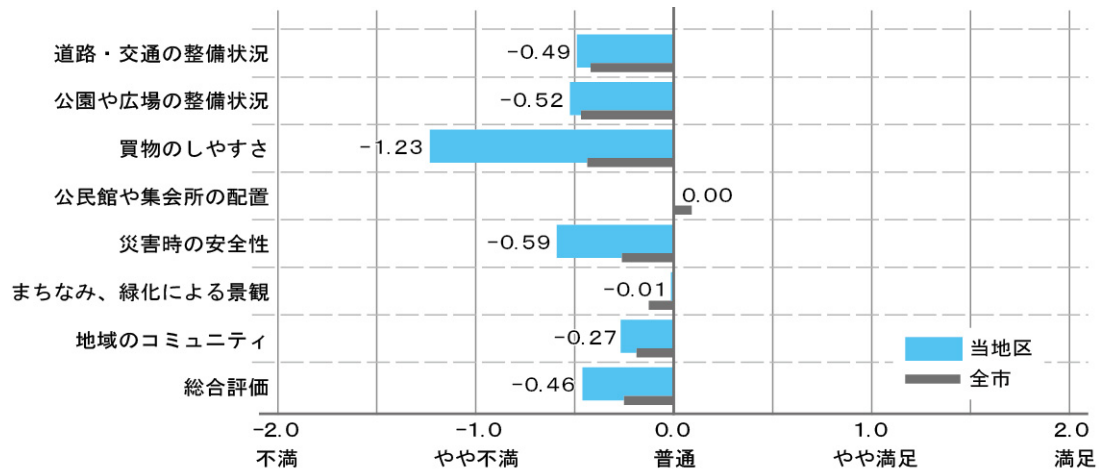
集落地の後背の山林は、妙義山や霧積山・剣の峰周辺の国有林に連なり、地区北部の山林には「群馬県野鳥の森・小根山森林公園」があり、南部の中木沢流域の山林は「妙義荒船佐久高原国定公園」の自然公園区域です。

【まちづくりに係る住民意向】

臼井地区の住民による地区環境の評価は、都市的利便性への評価が低く特に買物の便への不満が強いことに合わせて、急斜面の多い地形の特色からか災害時の安全性についても評価が低く、総合的に市内平均を大きく下回る環境評価となっています。

また、各地区の区長を対象とした地区別ヒアリングでは、観光交流を促進するための松井田宿から坂本宿にいたる観光ルート（歩行空間）と妙義山の眺望ポイントの整備、地域生活交通の安全性を確保するための主要生活道路の整備、国道18号との交差点の改良などの多様な意見が数多く寄せられました。

◆臼井地区住民による地区環境評価



② 地区の主なまちづくりの課題

- 横川駅周辺の地域生活拠点としての商業・サービスなど生活支援機能の維持、拡充
- 横川駅周辺の関所跡、鉄道文化遺産の保全と広域観光交流の資源としての活用
- 横川駅及び周辺の地域の生活交通、広域観光交通の拠点機能を強化する道路、広場、公共的駐車場などの整備
- 国道18号の広域通過交通と混在する山林地域の生活交通を分担し円滑化する地域生活幹線道路の配置、整備
- 松井田宿から坂本宿に至る観光歩行ルートの整備、沿道環境景観整備
- 妙義山の眺望ポイントへの広場整備
- 耕作放棄地、空き地・空き家などの適正管理、活用
- 群馬県野鳥の森・小根山森林公園や妙義湖周辺の山林自然環境の保全、アクセス機能の拡充などによる自然体験・学習の場としての利用増進
- 横川サービスエリアと周辺の歴史・自然を活かした観光資源との連携
- 大きな高低差などの地形条件に配慮した身近な防災拠点の配置、選定

(4) 坂本地区

① 地区の概況

【沿革・交通条件】

坂本地区は、市域西部、碓氷川最上流部の霧積川・入山川の流域で、山地稜線・峠を隔てて、西側を長野県軽井沢町、北側を高崎市倉渕地域、南側を下仁田町と接する広大な山地を主とする地区です。

地区東部の碓氷川と霧積川に挟まれた高台の国道18号沿道には、旧中山道「坂本宿」の集落地があり、その周辺が東側の横川地区に連なる都市計画区域です。

地区は、地区内で分岐する国道18号と同碓氷バイパスにより、横川・松井田・安中方面及び軽井沢方面と連絡し、地区西南部の西野牧地区には、県道との間に上信越自動車道碓氷軽井沢インターチェンジが設けられています。

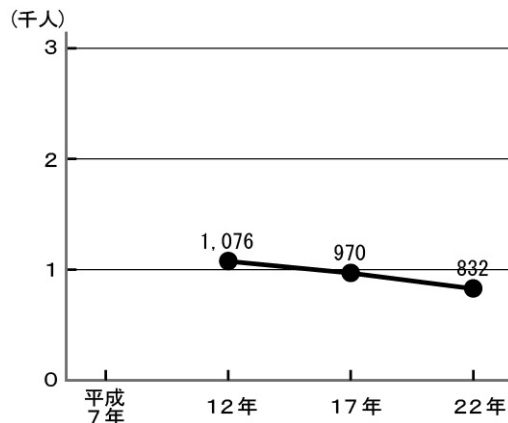
【人口動向・年齢構成】

地区の人口は、長期的に減少を続け、平成22年国勢調査人口は、832人と市内で最も人口の少ない地区となっています。

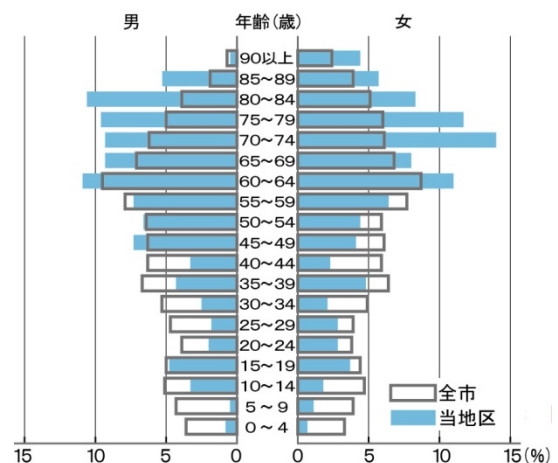
世帯数も減少を続け、平成22年には352世帯となり、平均世帯構成人員数は、2.36人/世帯です。

人口年齢構成は、老年人口の比率が平成22年は48.6%と半数近くを占め、数少ない生産年齢人口のなかでも団塊の世代の割合が多く、極端に若い世代の少ない社会構造となっています。

◆坂本地区の人口の推移



◆坂本地区の人口年齢構成



【土地利用の現況・動向】

地区東部の碓氷川と霧積川に挟まれた高台の国道18号沿道には、旧中山道「坂本宿」の街並みがあり、その後背地は畑地を主とする農地が介在する集落地です。

霧積川沿岸には、横川駅と軽井沢方面に続く碓氷峠鉄道文化遺産が連なり、沿岸山林の一部はゴルフ場として利用されています。

その他の区域は、谷合の小規模な集落地を除き、「上信越高原国立公園」「妙義荒船佐久高原国定公園」の自然公園地域が指定され、国有林を主とする山林の区域です。

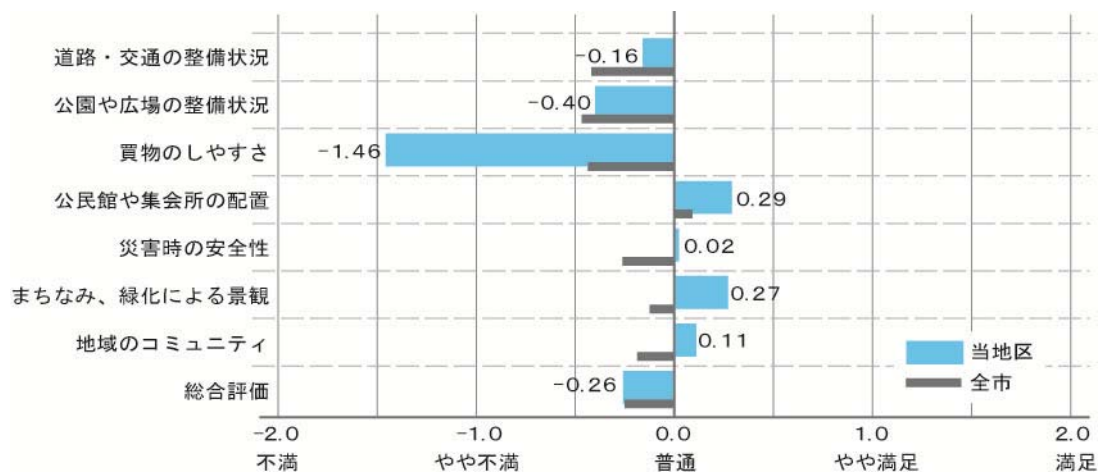
霧積川の上流部には霧積温泉があります。

【まちづくりに係る住民意向】

坂本地区の住民による地区環境の評価は、コミュニティや集会所の配置、緑の環境景観に対する評価が若干高い一方、都市的な利便性に対する評価が低く、特に買物の利便性に対する不満が非常に大きいことが特徴です。

また、各地区の区長を対象とした地区別ヒアリングでは、人口減少と高齢化により失われた地域の活力を補う交流の振興、地域での生活を維持するための最低限の交通手段の確保、荒廃が進む農地・家屋への対策など、切実な課題と取組の方向性に対する意見が寄せられました。

◆坂本地区住民による地区環境評価



② 地区の主なまちづくりの課題

- 超高齢化した地域社会の生活交通手段、生活支援機能の確保
- 山林・農地の活用による荒廃の防止、適正管理
- 空き地・空き家対策
- 坂本宿の街並みの保全、整序、広域観光交流の資源としての活用
- 碓氷峠鉄道文化遺産を活かして軽井沢方面とも連携する広域観光交流の促進
- 広域観光歩行ルートに沿った休憩・滞在、交流の場の整備
- 旧坂本小学校及び旧松井田西中学校の跡地の活用
- 河川最上流部の山林自然環境の保全、水源のかん養
- 土砂災害を防止する治山・治水対策の推進
- 国道18号を補完する災害時の避難・救援経路の確保

(5) 九十九地区

① 地区の概況

【沿革・交通条件】

九十九地区は、九十九川と地区南部で九十九川と合流する増田川の沿岸の田を主とする農地、河岸段丘の斜面・上面に形成された集落地・畑地と、その後背の山林から成る地区です。

地区は九十九川を境に南東側の原市地区と、丘陵を境に南西側の松井田地区と接し、原市地区・安中地区の市街地とは県道長久保郷原線で、松井田地区市街地とは、県道八本松井田線で連絡しています。

地区の大部分は都市計画区域外にありますが、地区西南部の高梨子地区の松井田城跡を含む山林の区域が松井田地区から連続する都市計画区域となっています。

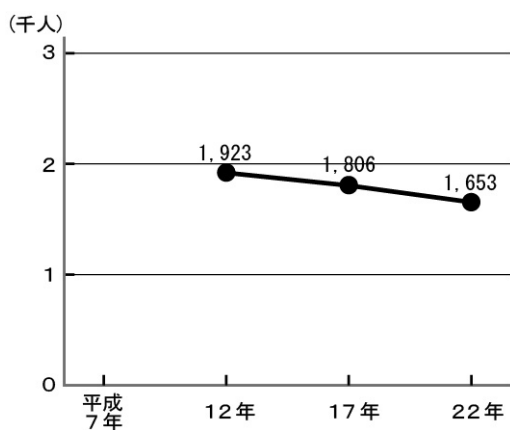
【人口動向・年齢構成】

地区の人口は、減少傾向にあり、平成22年国勢調査人口は1,653人となっています。

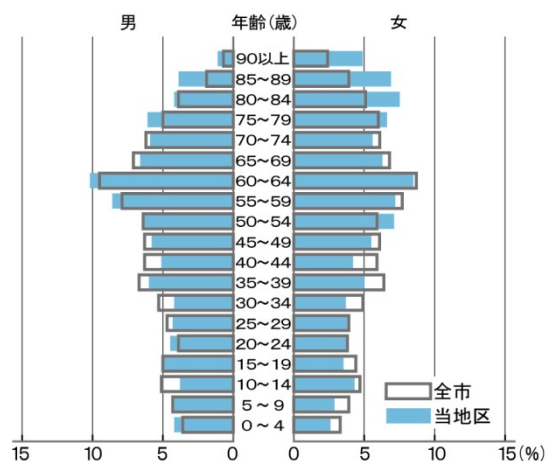
世帯数も減少し、平成22年の平均世帯構成人員数は、2.60人/世帯であり市内平均に比べ大きい状況です。

人口減少に連れて高齢化も進み、平成22年の老年人口比率は32.9%であり、市平均に比べ高齢化が進んだ社会構造を示しています。

◆九十九地区の人口の推移



◆九十九地区の人口年齢構成



【土地利用の現況・動向】

九十九川沿岸の低地は田を主とする一団の農地であり、その後背の丘陵斜面、丘陵上部の県道長久保郷原線沿道などに小規模な畑地を介在する集落地が形成されています。

地区の北西部及び南西部は山林であり、南西部の松井田地区に連なる山林の中にはゴルフ場があります。

【まちづくりに係る住民意向】

各地区の区長を対象とした地区別ヒアリングでは、ごみの不法投棄、通学路となっている道路の交通安全などの地域環境の管理にかかる問題点の指摘と、地域の農産品を活かした地域振興、観光交流などの提案の意見が多く寄せられました。

集落地の土地が都市計画区域外であることによる、建築や道路などの基盤施設整備に係る特段の課題は、指摘されていません。

なお、都市計画区域内のアンケート調査については、該当しないため行いませんでした。

② 地区の主なまちづくりの課題

- 河川や丘陵を越えて原市・磯部市街地、松井田市街地と連絡する幹線道路や生活交通手段の拡充整備
- 通学路などの交通安全性の確保
- ごみ不法投棄防止、汚水排水の適正処理などによる河川・山林・農地の環境の管理、汚染・悪化の防止
- 松井田城址周辺の山林自然環境の保全、歴史・自然の体験・学習の場としての活用
- 河川や高低差などの地形条件に配慮した身近な防災拠点の配置、選定と避難・救援経路の確保
- 近郊農業ゾーンとしての地域農産品を活用する地域振興・交流の促進

(6) 細野地区

① 地区の概況

【沿革・交通条件】

細野地区は、市域北部で北側を高崎市倉渕地区に接する、増田川、九十九川の上流部の山林を主とする地区であり、全域が都市計画区域外にある地区です。

地区は地区を南北に縦断する主要地方道渋川松井田線により、北側は地蔵峠を越えて高崎市倉渕地区と、南側は新天神山トンネルを通過して松井田市街地と連絡しており、原市・磯部方面には県道長久保郷原線により連絡しています。

また、後閑地区・秋間地区とは、西碓氷広域農道が連絡しています。

地区北部の山地には、JR北陸新幹線のトンネルが東西に通っています。

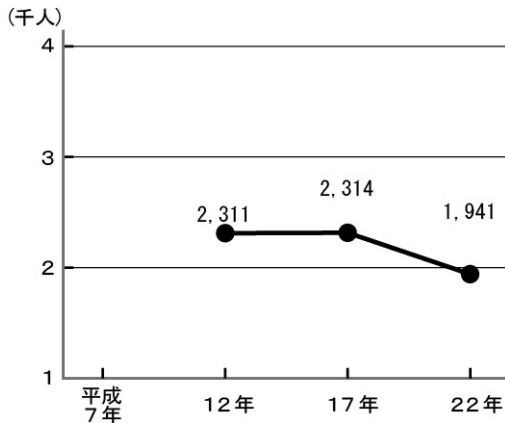
【人口動向・年齢構成】

地区の人口は、減少傾向にあり、平成22年国勢調査人口は1,941人となっています。

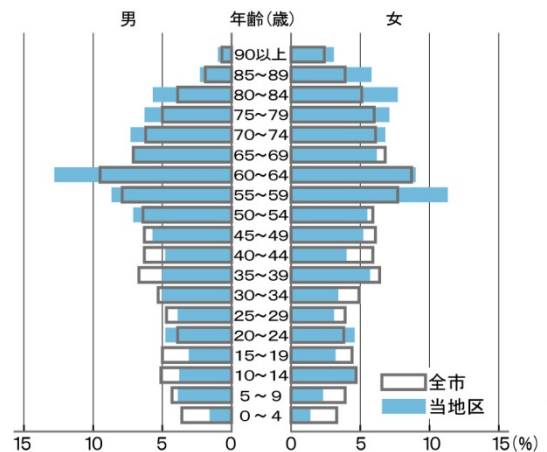
世帯数も次第に減少している傾向にあり、平成22年の平均世帯構成人員数は、2.66人/世帯であり市内平均に比べ大きく、大家族の世帯も残る状況です。

人口減少に連れて高齢化が進み、平成22年の老年人口比率は33.3%であり、市平均に比べ高齢化が進んだ社会構造を示しています。また、生産年齢人口の中でも団塊の世代の割合が多く、今後、更なる高齢化が急速に進むことが予測されます。

◆細野地区の人口の推移



◆細野地区の人口年齢構成



【土地利用の現況・動向】

地区南部の九十九川沿岸、九十九川と増田川に挟まれた丘陵上部及び地区中央部の増田川沿岸では、県道渋川松井田線、長久保郷原線の沿道に小規模な農地が介在する集落地が形成されています。

その他の区域は、群馬・長野県境まで連なる山地の山林であり、地区北部の山林は国有林です。

【まちづくりに係る住民意向】

細野地区の各地区の区長を対象とした地区別ヒアリングでは、松井田市街地と連絡する幹線道路の拡充整備、災害時の交通機能確保、山林・農地の荒廃と有害鳥獣の頻出、ごみの不法投棄防止や用水路・河川の管理・浄化などの地域環境の管理にかかる問題点の指摘と、地域に身近な職場を提供する産業用地の開発整備の提案などの意見が寄せられました。

集落地の土地が都市計画区域外であることによる、建築や道路などの基盤施設整備に係る特段の課題は、指摘されていません。

なお、都市計画区域内のアンケート調査については、該当しないため行いませんでした。

② 地区の主なまちづくりの課題

- 市街地と連絡する幹線道路や生活交通手段の拡充整備
- ごみ不法投棄防止、汚水排水の適正処理などによる河川・山林・農地の環境の管理、汚染・悪化の防止
- 河川最上流部の山林自然環境の保全、水源のかん養
- 細野原団地の統廃合・用途廃止にともなう跡地の活用
- 河川や高低差などの地形条件を乗り越える避難・救援経路の確保
- 土砂災害を防止する治山・治水対策の推進

3. 地域別構想「松井田地域」

(1) 地域の将来像とまちづくりの方向性

①まちづくりの目標

～ 豊かな自然と歴史文化を活かして、穏やかな暮らしを守るまち ～

②まちづくりの基本方針

<地域生活拠点地区の生活支援機能の維持・拡充>

地域生活拠点地区である松井田市街地については、高齢社会に対応するまちなか居住のための住宅更新整備と広域観光交流のための街並みの保全・活用とともに、地域生活を支える商業・サービス施設や公共公益施設の機能の維持・更新を図ります。

松井田市街地及び横川駅周辺と周辺集落地を連絡する幹線道路の整備と維持管理、交差点改良を進めるとともに、空き地・空き家の活用などにより公共的駐車場の整備を促進し、周辺地域からの生活交通の利便性を向上します。

<自然・歴史文化の資源を活かす広域観光交流の促進>

旧中山道の松井田宿・坂本宿の街並み、横川の碓氷関所跡や碓氷峠鉄道文化遺産、妙義山の山並みの眺望、群馬県野鳥の森・小根山森林公園などの山林自然環境など、地域の恵まれた自然・歴史文化とふれあい、交流することのできる環境を保全・整備し、アクセス道路や駐車場の整備などにより広域観光交流を促進し、交流により地域の活力を維持・増進します。

<広域高速自動車交通を活かす地域産業振興>

上信越自動車道松井田妙義インターチェンジによる広域高速自動車交通の利便性を活かして、地域に身近な職場を提供する産業用地の開発整備と企業立地誘導を進めます。

<生活交通手段の確保>

高齢化の進んだ地域社会において、買い物や通院などの生活交通の手段として、タクシーの利活用や公共公益施設の送迎バスの活用など、公共的な交通手段の確保と利用システムの確立に努めます。

J R信越本線各駅の駅周辺の広場、公共的駐車場などの交通結節機能を持つ施設整備を推進し、鉄道利用の利便性・快適性の向上を図ります。

<山林・農地の荒廃の防止>

河川最上流部の自然公園区域・国有林の山林自然環境を保全し、水源のかん養を図るとともに、市街地・集落地の後背の山林・農地の自然・農業の学習・体験の場としての活用などにより、その荒廃を防止します。

③ 将来地域構造

≪土地利用構成の大枠≫

市街地エリア

碓氷川中流域沿岸の松井田地区の旧中山道沿道と西横野地区のJR信越本線沿線については、市街地エリアとし、計画的な市街地整備と都市的土地利用の整序・誘導を図ります。

田園集落エリア

碓氷川・柳瀬川・九十九川・増田川の沿岸及び丘陵上部の農地・山林とそれに介在する集落地からなる区域については、田園集落エリアとし、自然環境・農業生産環境との調和を図りつつ、集落地の生活環境の改善整備を進め、コミュニティの活力の維持増進を図ります。

横川駅周辺地区については、周辺の山林自然環境との調和を図りつつ、広域観光交流と地域生活支援に資する商業・サービス機能の維持・更新を図ります。

山林自然環境エリア

市内河川の最上流部の国有林を主とする区域については、上信越高原国立公園地域及び妙義荒船佐久高原国定公園の自然公園地域に連なる山林自然環境エリアとなっており、山林の土地利用・環境の保全を図ります。

≪拠点地区の配置≫

地域生活拠点

松井田地区の旧中山道沿道、JR信越本線松井田駅・西松井田駅周辺と臼井地区の横川駅周辺については、地域生活拠点と位置づけ、地域内各地区との交通連絡を強化しつつ、公共施設や地域の最寄りの商業・サービス施設などの都市機能の集積を維持・更新を図ります。

産業拠点

地域東部の国道18号沿道の一団の産業用地と、上信越自動車道松井田妙義インターチェンジ周辺の幹線道路沿道、碓氷川沿岸の一団の産業用地については、地域に身近な職場を提供している産業拠点と位置づけ、幹線道路整備などによる産業生産機能の維持増進を図ります。

広域観光交流ゾーン

松井田地区の歴史的街並みや史跡を有する「松井田宿・松井田城址周辺ゾーン」、関所跡や鉄道文化遺産、歴史的街並みを有する「横川駅周辺・坂本宿ゾーン」、妙義山の山並み景観を有する「妙義山麓ゾーン」については、広域観光交流ゾーンとし、歴史的街並み景観や史跡の保存・整備、観光歩行ルートや広場や眺望ポイントの配置整備、アクセス道路や駐車場整備などにより、広域観光地としての環境を整え、他都市・他地域とも連携した広域観光交流ゾーンの形成を図ります。

(2) 地域の整備、開発及び保全の方針

① 土地利用の配置・誘導の方針

◆ 低層住宅地

- 一団の戸建て住宅団地や外縁の田園集落地と接し農地が残存する住宅地については、低層住宅地と位置づけ、周辺環境と調和した緑豊かでゆとりのある良好な住環境を保全します。

◆ 中低層住宅地

- 松井田地区の旧中山道と国道18号の間の歴史的建造物が残り公共施設が集積する住宅地については、計画的に建築される中層の建築物を許容する中低層住宅地と位置づけ、周辺環境と調和した住環境を保全します。
- 地区東部のJR信越本線沿線の住宅地などの中低層の集合住宅、小規模な店舗・作業所が戸建て住宅と併存して一定の建て込みが見られる住宅地については、中低層住宅地と位置づけ、中密度の住宅地の土地利用を誘導します。

◆ 複合市街地

- 地域生活拠点地区内や幹線道路沿道、鉄道沿線において、中小規模の店舗、業務施設、作業所が住宅と併存する既成市街地については、複合市街地と位置づけ、既存の宅地の有効利用・高度利用により、まちなか居住のための集合住宅や生活サービス施設の整備、機能更新を誘導します。

◆ 近隣商業地

- 松井田地区地域生活拠点の旧中山道沿道については、近隣商業地に位置づけ、空き地・空き家の活用などにより店舗の更新、まちなか居住のための都市型住宅への土地利用転換などを促進し、地域の生活拠点としての機能の増進・再生を図ります。

◆ 観光商業地

- JR信越本線横川駅周辺については、観光商業地と位置づけ、広域観光交流の促進に向けて、交流空間の整備とともに、商業・サービス機能の拡充を進めます。

◆ 沿道サービス業務地

- 国道18号の南側沿道については、沿道サービス業務地と位置づけ、大量通過交通を対象とした沿道サービス施設と地域生活サービスの一翼を担う商業施設の秩序ある立地と沿道環境・景観の整序を進めます。

◆ 工業・流通業務地

- 地域東部の国道18号沿道の一団の産業用地と、上信越自動車道松井田妙義インターチェンジ周辺の幹線道路沿道、碓氷川沿岸の一団の産業用地については、工業・流通業務地と位置づけ、周辺の道路交通機能の拡充などにより、既存工業生産機能の増進を図ります。

◆ 田園集落地

- 碓氷川・柳瀬川・九十九川・増田川の沿岸及び丘陵上部の農地・山林とそれに介在する集落地からなる田園集落地については、周辺の山林自然環境との調和を図りつつ、生活道路の整備などによる集落地の生活環境の改善と、山林・農地の管理・活用による荒廃の防止を進め、コミュニティの活力の維持増進を図ります。

◆ 自然活用保全地

- 地区西部の山林自然環境エリアの山林については、上信越高原国立公園・妙義荒船佐久高原国定公園内の山林、国有林・保安林として、自然公園法・森林法により、開発・都市的土地利用を制限し、その土地利用と環境を保全します。
- 田園集落地の後背の丘陵斜面や河岸段丘面に残され、良好な景観を形成している斜面緑地については、地域制緑地の指定などにより、その環境・景観の保全、活用を図ります。
- 広域の林間レクリエーションの場である丘陵上部のゴルフ場や、森林環境・文化の体験学習の場である「群馬県野鳥の森・小根山森林公園」については、周辺山林を含めた環境の保全を図るとともに、アクセス機能の拡充などにより利用を促進し、レクリエーション機能・学習機能を増進します。

② 市街地整備の方針

<地域生活拠点・広域観光交流ゾーンを構成する松井田宿の街並み環境整備>

旧中山道沿道松井田宿の広域観光交流ゾーンに位置づけられた市街地については、景観計画の策定・運用などにより、歴史的街並み景観や遺跡の保全・整備を促進するとともに、空き地・空き家の活用などによる沿道の広場・駐車場の整備や道路空間デザインなどにより、特色ある観光交流空間、便利で安全な商店街環境を形成していきます。

<系統的な基盤整備による住宅市街地の環境改善>

道路などの基盤施設の整備が不十分なまま、既に住宅が建て込んでいる市街地縁辺部の住宅地については、主要な生活道路の狭あい区間の拡幅整備などにより、市街地の基盤を整え、居住環境の改善、防災性の向上を図ります。

<公営住宅団地の集約再編、住戸の移転建替えの推進>

「安中市市営住宅等長寿命化計画」に基づき、点在する老朽化した小規模住宅団地の統廃合・用途廃止と、生活利便性の高い市街地への集約再編、住棟・住戸の移転建替えを推進します。

③ 自然・農業環境の保全・活用の方針

<市街地に介在する身近な自然環境の保全・活用>

市街地に隣接する身近な自然環境である碓氷川・九十九川の河川敷については、その環境の管理・保全を図るとともに、水に親しむことのできる緑地、広場、歩行空間・自転車通行空間としての活用を促進します。

<学習・交流の場としての山林・農地の保全、活用>

「群馬県野鳥の森・小根山森林公園」や、広域観光交流ゾーンである坂本地区の鉄道文化遺産の周辺の山林・農地については、アクセス道路の整備などにより体験学習、広域観光交流の機能の拡充を図り、学習・交流の場として活用することにより、荒廃を防止します。

④ 道路整備の方針

■ 幹線道路の整備

<国道18号の改良整備>

国道18号については、交通の円滑化、渋滞の解消、大量通過交通による地域環境への影響の軽減を図るため、拡幅整備、交差点改良などを促進します。

<南北方向地域連絡幹線道路の整備>

「松井田地区」の地域生活拠点市街地と周辺住宅市街地や各地区の集落地を河川や鉄道を越えて連絡する南北方向の県道などの幹線道路については、狭あい区間の拡幅、交差点改良など、道路機能の拡充を促進します。

<碓氷川右岸市街地東西連絡幹線道路の整備>

国道18号への交通負荷を軽減し、地域産業交通の円滑化を図るため、碓氷川右岸を東西に連絡する県道磯部停車場妙義山線、松井田中宿線の整備を促進します。

<柳瀬川右岸丘陵上部の東西方向産業拠点連絡幹線道路の整備>

東横野地区の丘陵上部の産業拠点と上信越自動車道松井田妙義インターチェンジを東西に連絡する幹線道路の整備を進め、産業交通の利便性を向上します。

<旧中山道の地域生活道路、広域観光交流空間としての再整備>

旧中山道については、広域観光交流のルート・交流空間として、地域の生活を支援する近隣商業空間として、歴史的街並み景観の保全や、歩行空間の快適化、特色あるデザインなどによる再整備を促進するとともに、交通安全性の向上を図ります。

■ その他の道路整備

<地区幹線道路・主要生活道路の整備>

各地区の生活交通が集中する主要生活道路については、交通の円滑化、交通安全性の向上に向けて、交差点改良、歩行空間の改修・拡充を進めます。

特に、学校通学路に指定された路線、災害時の避難路・救援路となる路線の改修整備を促進します。

<拠点地区などの歩行空間の整備>

地域生活拠点地区の主要な公共公益施設の周辺、広域観光交流ゾーンの観光交流ルートの沿道については、歩道の重点的な整備、段差解消などのバリアフリー化を推進します。

碓氷川・九十九川の沿岸道路や広域観光交流のルートとなる幹線道路については、沿道の環境整備、景観保全と併せて、自転車・歩行者道、自転車専用レーン、自転車専用道路の整備を進め、歩行者・自転車交通のネットワーク化を図ります。

⑤ 公共交通体系整備の方針

<JR信越本線各駅の交通結節機能の強化・快適化>

地域の生活交通の拠点であり、広域観光交流ゾーンの入り口となる駅であるJR信越本線松井田駅、西松井田駅及び横川駅については、駅周辺の交通広場、公共的駐車場などの交通結節機能を持つ施設の整備と駅施設の改修整備、バリアフリー化を促進し、鉄道利用の利便性・快適性を向上し、鉄道利用の増進を図ります。

<鉄道と円滑に接続するバス路線・運行の検討・設定>

路線バス・乗合タクシーについては、地域の公共交通の利便性を維持するため、鉄道から離れた地域を循環し、上り下りとも鉄道駅に至る路線など鉄道利用と円滑に接続し運行効率の高い路線・運行形態を検討し、総合的な公共交通体系の拡充を図ります。

<鉄道・路線バス等圏域外の生活交通手段の確保>

中山間の集落地などの買い物や通院などの生活交通の手段として、タクシーの利活用や公共公益施設の送迎バスの活用など、公共的な交通手段の確保と利用システムの確立に努めます。

⑥ 公園・緑地の整備の方針

<スポーツ施設の連携・役割分担を考慮した公園施設の機能更新、長寿命化>

碓氷川沿岸の五料運動場や西横野多目的広場などの公園・スポーツ施設については、他のスポーツ施設との連携、役割分担と施設の老朽化を考慮しつつ、市民の利用需要に応える効果的な施設機能の更新と長寿命化による効率的な施設維持管理を進めます。

<地域の歴史文化を保全し良好な景観を形成・活用する緑地の整備>

松井田城址のある丘陵斜面の山林については、地域の歴史を体験・学習する場としての散策路の整備や地域制緑地の指定を検討し、松井田宿の街並み景観の背景として、環境・景観の保全を図ります。

<観光交流機能や地域防災機能を併せ持つ公園・緑地・広場の整備>

松井田宿では、空き地・空き家の活用などにより、観光交流の場となるポケットパーク・広場の整備を促進します。

また、公園・緑地・広場の整備に際しては、災害時の避難などの経路確保が困難な地区や、震災時に延焼危険のある地区などで、避難場所や資機材の備蓄倉庫などの地域防災の機能を有する多目的な施設の整備を推進します。

⑦ 河川及び供給処理施設の整備の方針

<親水空間としての河川敷の整備・活用>

市街地に隣接して一定の広がりを持つ碓氷川の河川敷については、河川の治水機能との整合を図りつつ、親水性のある公園・緑地・広場の整備・維持管理、沿岸管理用道路の歩行空間・自転車通行空間の機能の拡充整備を進めます。

<污水集中処理の計画検討と合併浄化槽設置の促進>

建築物の建て込み、連担の状況から「污水処理計画」に污水の集中処理が合理的とされた市街地の区域については、地区の実情に応じた集中処理の事業手法を検討していきます。また集中処理の実現に長期期間を要する区域や集中処理が合理的でない区域については、合併処理浄化槽の設置を支援し、河川などの水質汚濁を防止します。

⑧ 都市環境の管理・整備の方針

＜市街地の施設内、宅地内の緑化の促進＞

市街地の道路整備や公共公益施設の整備、改修に際して施設内の緑化を推進するとともに、生け垣の奨励に関する補助制度や建築協定などのルールの適用により、宅地内の樹木・樹林の保全や緑化を促進します。

＜環境悪化の要因となる空き地などの適正管理の促進＞

ごみの不法投棄の対象となる恐れの高い空き地や耕作放棄地については、土地利用の規制誘導などにより土地利用の転換・活用と適正管理を促進します。

空き家については、「空き家対策」を検討し、対策措置を講じて、周辺環境悪化を防止します。

＜合併処理浄化槽の設置の促進による河川環境の汚濁の防止＞

公共下水道などの汚水集中処理の事業区域外については、合併処理浄化槽の設置を支援し、生活雑排水による河川環境の汚濁の防止に努めます。

⑨ 都市景観形成の方針

＜歴史的街並み景観の保全・活用＞

広域観光ルートである旧中山道沿道については、街並み景観の保全・活用を図ります。

＜山並みなどの眺望の確保＞

妙義山などの美しい山並みや河岸段丘斜面の緑地の眺望、景観を保全するため、市街地において建物の高さを制限する「高度地区」の指定や、主要な斜面緑地への「地域制緑地」の指定を検討推進します。

＜幹線道路などの沿道景観の整序＞

良好な街並み景観、幹線道路沿道景観を実現するため、県屋外広告物条例の適切な運用を図り、景観を阻害する屋外広告物を制限します。

⑩ 都市防災の方針

＜市街地建築物の耐震化、不燃化＞

災害時に避難・救援活動の拠点となる公共公益施設などについては、耐震化を推進し、防災機能を確保します。

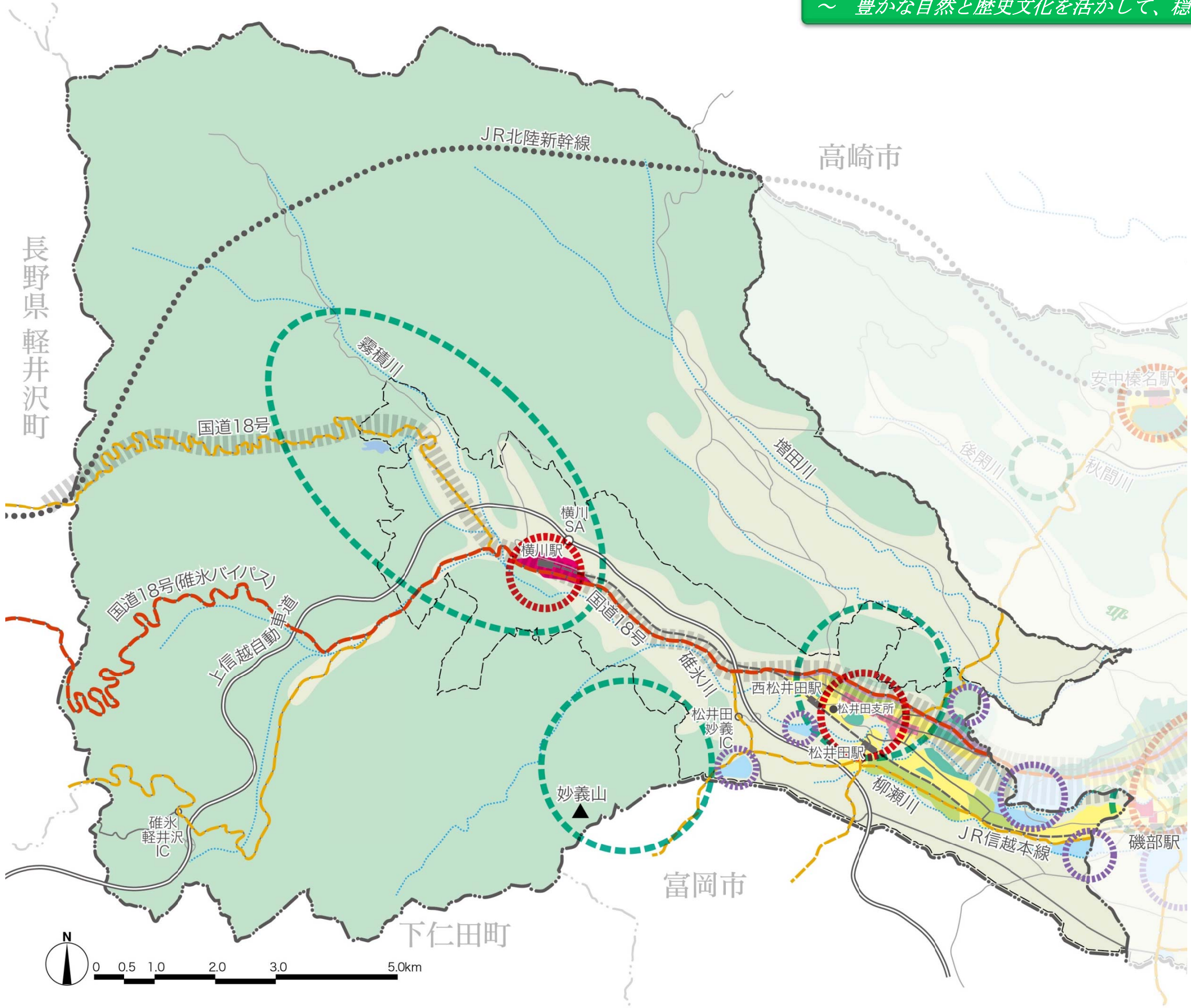
比較的建築物の密度が高く、出火の危険性の高い施設が多い都市拠点地区の市街地については、防火地域・準防火地域の指定やブロック塀の生け垣化の促進などにより市街地の防災性の向上を図ります。

＜土砂災害を防止する治山・治水対策の推進＞

総合的な治水対策を進めるとともに、河川上流部などの土砂災害の恐れのある斜面についての砂防・治山対策を推進します。

◆「松井田地域」地域整備構想図

～ 豊かな自然と歴史文化を活かして、穏やかな暮らしを守るまち ～



- 低層住宅地
- 中低層住宅地
- 複合市街地
- 拠点商業業務地
- 近隣商業地
- 観光商業地
- 沿道サービス業務地
- 工業・流通業務地
- 田園集落地
- 自然活用保全地
- 大規模公園緑地
- 幹線道路
- 鉄道・駅
- 現行都市計画区域
- 都市軸
- 広域交通軸
- 地域連絡交通軸
- 都市拠点
- 地域生活拠点
- 産業拠点
- 広域観光交流ゾーン

